

正蓮寺川利水河川浄化用水 200億 m^3 達成（送り続けて46年）

正蓮寺川利水（中津川管理室）では、昭和45年7月から下流河川である正蓮寺川・六軒家川へ河川浄化用水として 淀川（感潮河川区間）から分水していますが、平成28年8月29日午前2時をもって分水総量が200億 m^3 に達しました。この間、概ね46年と2ヶ月です。

200億 m^3 と説明してもピンと来ないと思いますが、日本で最大の貯水量を誇る琵琶湖に貯まる水が275億 m^3 と言われていいますので、琵琶湖の水の7割以上にもなります。また、霞ヶ浦の水が8.5億 m^3 と言われていいますので、その20杯以上を送水したことになります。

1日の分水量は最大約190万 m^3 で年間の最大送水量は、昭和54年の約6.3億 m^3 です。逆に年間の最小送水量は、平成12年の約2.5億 m^3 です。これは、送水路の切り替え延伸工事に伴う減量の影響が出たものです。

下流河川である正蓮寺川及び六軒家川の事業前は、川べりを歩くと、どぶ臭い川だったと聞いております。現在の年間平均BOD（＝生物化学的酸素要求量）は、3mg/L以下で河川環境基準値をクリアした河川に生まれ変わり、臭いと感じることはありません。

分水開始以降、46年と2ヶ月の間にポンプ設備を1度更新しており、現在のポンプは2代目となります。また、周辺も完成当時から様変わりしており分水先の正蓮寺川は埋め立てられ、人の目に触れる川だったところが水路ボックスとなり、隣には下水道ボックスと高速道路が走り、その上部は周辺住民が憩う公園になろうとしております。

中津川管理室では、今後も経費削減に努めつつ正蓮寺川及び六軒家川への分水を行ってまいります。

取水口と高見機場



高見機場（ポンプ設備）



六軒家川



正蓮寺川

